

表紙の説明

三社祭の賑わい

須田径子 陸自68

三社祭は、毎年5月、3日間に行われて行われる東京の浅草神社例大祭で、200万人前後の人出で賑わいます。

この祭りの名は、推古天皇の時代に、隅田川の中から人型の像を発見した兄弟と、それを聖観世音菩薩と解明した郷司（役人）の3人を神として祀ったことに由来している。同じ5月の神田祭、6月の山王祭と合わせて三大祭りと呼ばれます。

令和元年の今年は、5月17日（金）から行なわれ、18日（土）午前10時に例大祭式典が斎行され、浅草神社社殿前に新元号を祝して44カ所の町内神輿100余基が勢ぞろいしました。その光景は、とても華麗で威厳のあるものでした。

この写真は、昨年の一場面です。この様な人出の中で写真を撮るのは困難を極めますが、浅草寺本堂が最適だと考え、撮影可能な一瞬を利用して撮ってみました。遠くの仲見世まで埋め尽くす神輿と人出に感動するとともに、この様子から200万人の人出を想像することができました。

神輿は激しく揺さぶられるほど、神様の力が強くなるそうですが、揺れる神輿に人々の神様への敬愛を感じ、日本人として生まれたことに感謝しないではいられませんでした。

（偕行フォトクラブ会員）